

令和4年3月期月次景況調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員60人に、本会が新たに選んだ20人を加えた80人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

新型コロナウイルス感染症のまん延防止等重点措置の解除や年度末の需要増により、サービス業や小売業、運輸業等において売上高が増加している一方、原材料・原油価格の高騰が続き、多くの業種において収益を圧迫している。

この結果、3月期の景況DI値は、わずかに好転したものの、依然として低い水準に留まっている。

繊維工業や窯業・土石製品、一般機器においては、既に原材料費の値上げが通知されているほか、ウクライナ情勢により、今後さらに、穀物・木材等や原油価格の高騰が見込まれるとし、製造業を中心に、ウクライナ情勢の経済への影響を懸念している。

山口県の主要指標DI値（令和4年3月末現在）

※DI値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI値〉）

前年同月比は、好転：3.8% 悪化：46.3% DI値：▲42.5% ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI値〉）

前年同月比は、増加：16.3% 減少：38.8% DI値：▲22.5% ポイント

収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI値〉）


前年同月比は、好転：7.5% 悪化：41.3% DI値：▲33.8% ポイント

山口県の業種別DI値(業界の景況)（令和4年3月末現在）

 30以上	 30未満～ 10以上	 10未満～ ▲10以上	 ▲10未満～ ▲30以上	 ▲30未満
---	--	---	--	--

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲75.0	▲50.0	▲66.7	▲100.0	▲33.3	▲33.3	0.0	▲50.0
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	その他	全非製造業
▲20.0	▲37.5	▲80.0	▲18.2	▲45.5	▲42.9	0.0	▲37.5
							

全体
▲42.5


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	まん延防止等重点措置が解除されたが、公共交通機関、観光地の売上はわずかしか戻らず、コロナ前には程遠い状況である。原材料だけでなく、フィルム、箱などの包装資材価格の高騰は避けられない。あわせてガソリンや賃金を含めた原価の上昇から4月1日より価格に転嫁する組合員もある。	パン・菓子製造業 山陽小野田市
	新型コロナウイルスの影響で、学校が学級閉鎖・学年閉鎖・休校など2月に引き続き影響があった。	パン・菓子製造業 下関市
	組合員皆、人員の募集をしても集まらず頭を痛めている。特に水場仕事に携わる人達が高齢化している。観光関連の景気の落ち込みが続いており、商品の販売にも影響している。	水産食料品製造業 長門市
	コロナ禍の業況は、当組合員の業種によって変わらない組合員、季節的に厳しい組合員と分かれている模様。数字的な部分はわからないが、今年の冬はどの会社も前年とあまり変わらなかった様子だが、外国人技能実習生が入国できないが帰国は出来るので、人数が減るばかりで各企業困っている。3月1日より外国からの入国が緩和され、4月中旬に新しい外国人技能実習生の入国が決まった。今後、通常に入国できるようになってくると思う。	水産食料品製造業 下関市
	地方中小企業者への新型コロナウイルスによるダメージは遅れて現れている。業況悪化傾向の中、今年に入って、売上の減少、更に原料の高騰、ウクライナ情勢による原油高騰で、先が見えない。GWの動向と中元商戦の時期が、業況把握のチェックポイントになると考える。	
	全国的なまん延防止等重点措置は解除されたが、飲食店営業の自粛活動に伴う全国的な農産物あまり現象による農産物価格の下落により、売上高も大幅な下落となり大きな影響を受けている。ロシアがウクライナに侵攻し、1ヶ月が経過したが、全く終息する気配も無く、原油価格の上昇や円安の進行により、資源不足が懸念されている。また、ウクライナは世界有数の穀倉地帯でもあるので、食料不足に伴う穀物価格の上昇も懸念されている。政府は、原油価格の上昇に伴う損失補填などを早急に進めると共に、食料安全保障対策を早急に図るなどの措置が必要となってくる。また、ロシアに対する国際社会と協調した対策が求められ	精穀・製粉業

	<p>ているし、救援物資の提供も必要となってくると思うので、情勢を注視しながら、迅速に対応することが、必要となる。</p>	
繊維工業	<p>糸、資材、ハンドリング（運賃等手数料）、工業用オイル、包装資材等それぞれ 10%値上げの通知が来ており、コストアップが生じている。給料をあげても人を雇いたいが、なかなか相応しい人材がいない。育成の必要がある場合は、指導者の手を取り生産性が上がらなくなるので踏み切れない。この先、スタグフレーションの可能性を大いに感じる。</p>	<p>外衣・シャツ製造業</p>
木材・木製品	<p>建築・木材業界全体が低迷している。当地域の工務店は四苦八苦しているのではないだろうか。この度のウクライナ紛争でロシア材が入荷困難となれば赤松材の不足となり、関連商品の高騰品薄は確実である。組合としての活動は皆無であり、2月と同様、何の進展もない状況。</p>	<p>製材業・木製品製造業 岩国市</p>
	<p>当組合の新型コロナウイルスによる影響が出始めた時期は、令和2年4月以降である。組合員の平均売上額は、コロナ前の令和2年3月に比べ15%の減少、コロナ禍の令和3年3月と比べ10%の増加だが、増加傾向の事業所と依然減少が続く事業所とが混在している状況。国産材は価格・供給量ともに安定している。外材については価格高騰気味。合板類（ラワンベニア、構造用合板など）が全般的に品不足である。</p>	<p>製材業・木製品製造業 山口市</p>
印刷	<p>年度末だが工場も土日に出て作業をするほどの忙しさは無かった。</p>	<p>印刷 山口市</p>
	<p>新型コロナウイルスのまん延防止等重点措置が、3月21日に全国一斉に解除となったことで、年度替わりや行楽シーズンの到来に伴う人流の増加等で消費活動が活発となり、経済の活性化も期待されるが、ウクライナ情勢や福島、宮城での地震発生など、景気動向に不安材料も多いのが現実である。印刷業界も最も繁忙となる年度替わりシーズンを迎えて、受注はピークを迎えているものの、紙やインクなどの原材料の上昇により企業収益が圧迫されるという厳しい状況である上に、国際情勢の動向により更なる原材料価格の高騰が懸念される。物価の安定とロシア・ウクライナ紛争が第3次世界大戦の引き金にならないことを祈るばかりである。</p>	<p>印刷 下関市</p>
窯業・土石製品	<p>3月末頃から鋼材、木材、運賃等の仕入全般において、値上の案内が続々ときている。開始時期は「6月1日からの納入分より」の案内が多いように感じる。平均約15%UP。公共工事の比率が高い業界なので、設計値を都度見直して頂かないと立ち行かなくなるので</p>	<p>生コンクリート製造業</p>

	はと危惧している。	
	出荷量は、前月比 105%、前年同月比 95%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定している。	コンクリート製品製造業
	組合員の仕事に関しては順調のようである。東北の地震により倒壊した墓石の映像を目にするが、いくら耐震施工をして倒壊は免れたとしても、地盤が歪んでしまった場合には、かえって耐震施工が（コーキングや芯棒等）再度組み替えるときの足かせになってしまうのでは？という意見もある。	石工品製造業
	萩市内の観光客は平日に少ないものの、土日・3連休は多くなった。売上については、小売は前年比で 30%以上増加した。百貨店やギフトなど卸も昨年比 20%程度増加した。3月21日全国で蔓延防止等重点措置が解除され、3月25日には「萩にゃんお得にゃ観光クーポン」が再開（第3弾）されたので、さらなる売上アップに期待したい。	陶磁器・同関連製品製造業
一般機器	昨年と比べ、年度末の駆け込みの注文が多かったように思われる。新型コロナウイルス感染症の感染者も増えているが、以前のように、業務が全て止まることなくなくなってきているので、影響も以前と比べては少なくなっている。	一般機械器具製造業 下松市
	組合で配管供給している酸素（変動制ではない）・LPG（毎月変動制）の値上げが業者からきている。LPGについては毎月変動する仕組みだが、単価が前年同月比 29.5%上昇している。酸素については4月納入分より単価が 5.6%値上がりする。	一般機械器具製造業 周南市
	設備・機械関係の業種では、材料費が4月以降さらに値上がりすることもあり、年度末の駆け込み受注、引き合いも増えているとの報告あり。すべての業種において、受注時点の原材料費が見積り時と比べて値上りしており、入手困難な購入品の状況も改善が見られず、減価の上昇と納期の調整に苦労している。仕事を請けても材料の入荷が間に合わないなど深刻な状況。原材料費の値上げ分を販売価格への転嫁、取引条件の改善に充てるのが難しい状況が続いている。人手不足は長期的な問題で国内だけでは対処することが難しいため、海外からの人材の受け入れを増やすしかないと考えている。自動車関係の業種は低迷が続いており、さらに部材、原材料の値上がり、調達困難な状況が大きな問題となっている。ロシアのウクライナ侵攻による日本経済への影響として、原材料・部品等輸入品のさらなる値上げ、入手困難な状況のさらなる悪化が考えられ、半年後以降の米ロ、中ロ関係も注視して	一般機械器具製造業 防府市

	<p>いる。</p> <p>新型コロナウイルス蔓延による企業業績への直接的影響はなく、大半の企業では、むしろ外国人技能実習生が入国出来ず、派遣等で対応しているが安定的に確保することが難しく、人手不足から残業が増加するとともに事業の縮小を余儀なくされ、企業からは早期入国と異動希望者の引き留め依頼が相次いでいる中であつたので、入国が出来るようになり一安心である。16日には一陣が入国し、レジデンスの期間も短くなり、企業からも好評で、引き続き2陣、3陣の入国が決まり対応に追われている。再度の入国禁止がないことを祈っている。また、ウクライナ情勢が経済にどの程度影響してくるかについても注視している。</p> <p>原材料価格の高止まりが継続する中、利益確保が難しくなっている。</p>	一般機械器具製造業 宇部市
輸送機器	<p>鉄道車両関係は順調に推移している。鉄道車両生産は国内業者の令和4年度以降の新車両計画は減少の見通しで、それに伴い受注高も減少が見込まれる。半導体は、例年の2～3倍の受注量で引き続き好調で、2～3年後も順調に推移の見通し。原材料や燃料費の高騰が相次いでおり、価格転嫁がすぐには難しい。</p>	鉄道車両・ 同部品製造業
卸売業	<p>在庫状況は順調であり、売上は2月より増加、前年同月比は、ほぼ同じであつた。特にカキは増加し多くの入出庫が行われており、新型コロナウイルスの影響はほとんどない。</p> <p>令和3年に比べると良くなっている。「ふく」の入荷が多く、余り気味である。</p>	乾物卸売業 生鮮・魚介卸売業
小売業	<p>3月はオミクロン株の老人介護施設や子供たちのいる家庭内感染が増え、下関ではそれに伴い外出を控えたため売上が良くなかったお店が多かった。他の地域の売上は前年と変わらないか、微増の模様。初旬に資生堂のコンベンションを広島で開催予定だったが、中止となりリモート開催になった。新しい取り組みや商品アイテムも充実し、若年層の獲得を目指しているような内容で、取扱店の感想は期待以上のもので、各組合員の売上が伸びるなり、快方に向かうと良い。</p> <p>まん延防止等重点措置の中、各店舗で展示会を実施したが、来場、売上とも減少。前年同月比で90%位。</p> <p>令和3年3月と比べると約114%の売上微増。令和2年3月と比べると約55%の売上。駐車場売上・ホール売上とも微増となった。</p>	化粧品小売業 機械器具小売業 各種商品小売業 周南市

	<p>2月売上は対前年同月比でマイナス 25.6%と大幅減少。萩市内でも感染者が増加するなど、新型コロナウイルス第六波の影響を大きく受け厳しい商況となった。学級閉鎖の影響でパート職員の欠勤など人員のやり繰りにも難渋した。3月は3/23時点でプラス30%程度の大幅増加。感染状況の漸減と制限緩和に加え、早咲きの河津桜のPRや旬の「まふぐ」キャンペーンが功を奏し、市内県内客が大幅に増加した。</p>	各種商品小売業 萩市
	<p>前年同月比で供給高 105.5%、来店者数 101.4%。累計では、前年比供給高 99.4%来店者数 96.7%。2019年度累計の供給比は、104.6%。</p>	各種商品小売業 下関市
商店街	<p>2～3月にかけて全国で新型コロナウイルス関連の制限が解除になった。一部では大雪や地震など天候災害もあるが、山口県への影響は小さい。しかし小売市場の回復にはほど遠い状況が続いており、商業・観光とも低調または更に悪化している。製造業は加工業に早くから出ていた価格上昇の影響が小売業界にまで及び、景気上向きへの期待感も無い。社会格差・収入格差が著しく露呈している。</p>	岩国市
	<p>長引く新型コロナウイルスの影響で以前に増して人通りが減少している。</p>	防府市
	<p>徐々に平常に戻りつつあるものの、感染者の数字もあまり変わりなく警戒感の強さを感じる。消費の伸びも見られない。</p>	宇部市
	<p>制限が解除され、人の往来も観光客も増し、各店舗の出入りも増している。「観光客や地元の人出入りはあるが、新型コロナウイルスの影響で財布の紐は固く、売上の数字には反映していない。」と店主は話す。</p>	萩市
	<p>下関市の新型コロナウイルス感染者の増加により商店街の人通りが少ない。近隣に小学校・中学校・2高校があるが、卒業式の日には人通りが若干増え、平日は元に戻る感じである。</p>	下関市
サービス業	<p>新型コロナウイルスが収束しないが、各店舗、例年通りの年度末の忙しさであった。</p>	美容業
	<p>まん延防止重点措置が解除、3回目のワクチン接種が進み、客足が少しずつ増えている。</p>	理容業
	<p>自動車業界の年度末といえば、自動車の廃車手続きや決算における自動車の年度内登録のため、運輸支局の窓口はごった返し、さながらお祭り騒ぎが定番であったが、近年、その様相が変わってきている。その要因の一つは、半導体不足等により車の生産台数が減少しており、その反動による納期の遅れ、また、ディーラーの新車登録手続きに際して「ワンストップサービス</p>	自動車整備業

	(OSS)」の利用が増加したことで、登録日の分散もその一因となっているようである。昔の賑わいを知っている者としては、この年度末の静けさが業界の暗さを象徴しているかのように身にしみて感じる。	
	オミクロン株の影響で休みが多く、3月の売上への影響が大きい。特に小学生は軽症なので、何人感染しているのかわからない。クラブとして感染者が出ると、感染対策は徹底して行っているが罪悪感をおぼえる。	スポーツ・健康教授業
	今年は早くに暖くなり、気候的要因によって春の衣替えが少し早まり昨年同月に比べると売上げが上がった店舗が多いようである。しかし、各種資材価格や燃料費の高騰によるコスト増も大きく、収益としては厳しい状況が続く。値上げに踏み切る同業者もあり、それは大切なことではあるが、年々落ち込むクリーニング需要に対してどのような影響が出るか注視して実施する必要がある。	普通洗濯業
	3月に入っても新型コロナウイルス感染陽性者数は減らず、世の中がまだまだ飲みに行く雰囲気ではない。飲食料店は、大学生の卒業などでスタッフの数も減るなど、今が一番厳しい時期だが、リニューアルオープンに向けて準備をし、心機一転また集客も頑張っていこうとしている組合員もある。	飲食業
	昨年度と同様、新型コロナウイルスに振り回された一年だった。まん延防止等重点措置及び緊急事態宣言を繰り返し、人流抑制となり、前年度比で70%程度、前年同月比では35%と、JR券の売上販売は厳しい年であった。	旅行業
	旅々やまぐち割が復活し連休から春休み間の宿泊客が増加。売上、宿泊客数とも前年越えとなった。しかし、令和元年3月からコロナの影響を受けたので、平成30年3月と比較すると、売上は66.6%、宿泊人員は91.2%であった。売上の落ち込みは宴会需要の激減(売上比33.6%)が要因である。	旅館業 山口市
	春分の日、3連休からぼちぼち予約が入りだした。感染状況を確認しながら、直前での予約が多い。宴会はまだまだ動かない模様。	旅館業 下関市
	入浴者数は前年比20%の減少。売上高は10%減額となった。原油価格の上昇により加熱費が大幅の増加したため、一部の入浴施設の週休業日を4日間に増加した。4、5月の連休は休まず営業の予定。	旅館業 長門市
建設業	中電への工事申請104件(当支部86件)、前年同月99件(同89件)。太陽光発電への申請31件(前年14件)、オール電化申請81件(前年45件)。LED街路灯への切り替え・新設申請28件(前年25件)であった。	電気工事業

	<p>工事量は減少傾向にあり、専門工事業者に工事を発注する総合工事業者間の受注競争が激しくなっている。その金額を受け専門工事業者の総合工事業者から受注する工事受注量及び受注単価が約2年前より下がっている。専門工事業者の規模の縮小が進み、今まで取引をしたことのない総合工事業者からの施工打診が1年余り前から急速に増えている。</p>	左官業
	<p>令和3年度官公需受注分の検査も無事終了の様様。令和2年度よりも受注量は少なかった。令和4年度官公需は電子入札となり、当組合の受注は叶わなかったため、官公需のみを仕事としている組合員には大きな痛手となった。令和4年度は厳しい年となることが予想される。</p>	管工事業
	<p>組合員の廃業を受け手続きを進めたが、離島の道路維持を担当していたことから、今後の受け手の決定等に課題が残っている。年度末を迎え各組合員は、工事の完了行程、変更など多忙の様子である。上関大橋の補修工事が、夜間に実施されており、その完了までは当分かかりそうである。</p>	一般土木工事業 柳井市
	<p>3月の受注高は、対前年同月比 99.6%。令和3年度の累計では、対前年比 102.9%。</p>	一般土木工事業 萩市
	<p>第4四半期（令和4年1月～3月）の受注高は前年より多いが、売上は例年並みである。軽油等の値上がりが収益に影響している。</p>	一般土木工事業 長門市
	<p>現状は仕事量を確保しているものの、小規模工事が多い。材料・副資材の価格高騰が続いているため、見積価格を出すのに苦戦している。</p>	鉄骨・鉄筋工事業
運輸業	<p>まん延防止等重点措置の解除以降、輸送量が増加し、輸送車不足をきたした。対前年同月比で輸送量は70%の増加、年度末と重なったことが一因であるとみられる。燃料費は3.30円の値上り、中小輸送業の経営は一段とひっ迫しつつある。</p>	一般貨物自動車運送業 下松市
	<p>依然として海外からの半導体、部品調達に支障が出ており、自動車関連においては生産調整の荷主もある。組合取扱の輸送取扱高は前年比では5%程度の落ち込み。景況感は荷主により大きく相違している。</p>	一般貨物自動車運送業 防府市
	<p>輸送は、引き続き製造関係が好調で、決算期で物量が増えつつある。慢性的な人員不足が続いている。生活雑貨品関係の輸送・保管は横ばいといったところである。</p>	一般貨物自動車運送業 宇部市

	<p>タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比▲9.9%（令和4年2月1日～令和4年3月20日分）だった。2月1日～28日分は▲19.4%、3月1日～20日分は+2.2%。2月分はまん延防止等重点措置もあり特に大幅な落ち込みだった（前々年比▲64.5%）、前々年度比では、それぞれ▲50.0%、▲64.5%、▲14.6%になる。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。2月分については、周南▲20.2%、下松▲42.2%、光▲24.8%、防府市地区は▲2.5%で、組合員の全域では▲19.4%、地区外（員外）▲19.7%、合計▲19.4%（▲1、621千円）だった。主要燃料であるLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動する。CPが上昇し（前月742.5\$/トンが今月847.5\$/トン、前年590.0\$/トン）、輸送用バンカーC重油も上昇（前月743\$/トンが今月834\$/トン、前年518\$/トン）。為替は円安（前月115.85円/\$が116.22円/\$）。燃料単価は前月より+7.9%上がった。前年3月比+26.3%であり、たいへん厳しい状況。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって慢性的に不足している。新型コロナウイルス感染発生の影響は続いており、まん延防止等重点措置となった2月1日から20日より回復しつつあるが、感染が収束したとは思えず、特に、夜間の飲食業関連は回復にまだまだ時間がかかるように思われる。加えて、ウクライナ情勢によるインフレ不況への懸念が景気回復の妨げになっていると思われる。</p>	<p>一般乗用旅客 自動車運送業</p>
	<p>取扱高は、前年同月が多かったため、対前年同月比では減少となった。</p>	<p>港湾運送業 山陽小野田市</p>
<p>その他</p>	<p>2月と変わらず外国人技能実習生の入国は出来なかったが、本国との連絡は今まで以上に密に行い、また各事業所とも切れ目なく状況の説明をするなど関係性を築いてきた。3月の半ばに、いよいよ4月からの入国が現実的になるとの情報が入り、一気に状況が変わった。以前にも増して各関係者とのやり取りも活発になり、当組合の業務も増えてきている。入国が待たれたが、その間の各事業所からの信頼の構築が結果につながったように思う。今後は実習生の人数の確保だけではなく新たな問い合わせもあり、新規組合員の増加も見込める。</p>	<p>介護事業</p>